

ストレージファンド組成で市場拡大加速へ

将来的にはリート立ち上げも エリアリンク

ストレージ業界が新たな1歩を踏み出した。エリアリンクが2018年、ストレージ特化型のファンド組成を発表。7月には2号目を組成。将来的にはリートの組成も目指していく。



エリアリンク 取締役営業本部長 栗野 和城氏

日本で広がりを見せるストレージ。2017年現在には657億円、2020年までには777.9億円までの拡大が見込まれている。国内ストレージ業界最大手のエリアリンクは「合同会社ハロース（東京都千代田区）は、市場規模拡大の更なる加速に向けて、今年、国内初のストレージファンドを組成した。同社では3月にりそな銀行、長谷工不動産投資顧問と「合同会社ハロースストレージファンド1号」を組成。ファンドポートフォリオに4物件を組み込み、組成規模は約20億円。その4カ月後の7月に「合同会社ハロースストレージプレミアム」を組成し、規模は約20億円。投資家から資金調達することで出資金額1685拠点、総室数8万5005室を擁する。2018年6月現在、新たな成長ビジネスとして、幅広い投資家から注目を集めようとしている。

「米国のストレージが普及した背景には、アパート、ハローコーンテナ」などの「ハロース」を展開、「業界全体でストレージ普及の流れをつくっていく」と話す。

「日本国内ではバルマ（東京都）が2017年1月にシアールイなどの共同出資によって日本パーソナルストレージを設立。将来的には、リートの組成も目指している」と話す。

「今後の展開については、栗野氏は「年度で2つのファンドを組成していく」とも、リートの立ち上げも目指します。私募からなるだろうが、いずれは上場して公募型リートにまで成長させていきたい」と話す。